

印刷物仕様書

印刷物名	架け橋期のカリキュラム活用リーフレット		数量	(枚 組) 1 0 , 0 0 0	■部 □枚 □組 □冊 □セット
印刷区分	<input checked="" type="checkbox"/> オフセット <input type="checkbox"/> フォーム <input type="checkbox"/> ダイレクト <input type="checkbox"/> 賞状 <input type="checkbox"/> 地図 <input type="checkbox"/> その他 ()				
	<input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B 4判 (<input checked="" type="checkbox"/> 仕上がり)	<input type="checkbox"/>	イチ×イチ	<input type="checkbox"/>	mm × mm
用紙規格	<p>【表紙】 . kg (紙の厚さ) <input type="checkbox"/>上質紙 <input type="checkbox"/>コート紙 <input type="checkbox"/>アート紙 <input type="checkbox"/>レザック <input type="checkbox"/>色上質紙 (厚口・特厚口) <input type="checkbox"/>その他 () <input type="checkbox"/>片面刷／<input type="checkbox"/>両面刷 (色)</p>				
印 刷 面	<p>【本文】 8 頁 93.5 kg (紙の厚さ) <input type="checkbox"/>上質紙 <input checked="" type="checkbox"/>コート紙 <input type="checkbox"/>アート紙 <input type="checkbox"/>OCR用紙 <input type="checkbox"/>ノーカーボン紙 (青・黒) (N) <input type="checkbox"/>その他 () <input type="checkbox"/>減感 (枚目) <input type="checkbox"/>裏カーボン (枚目) <input type="checkbox"/>片面刷 (<input type="checkbox"/>モノクロ (頁) <input type="checkbox"/>2色 (頁) <input type="checkbox"/>3色 (頁) <input type="checkbox"/>4色 (頁)) <input checked="" type="checkbox"/>両面刷 (<input type="checkbox"/>モノクロ (頁) <input type="checkbox"/>2色 (頁) <input type="checkbox"/>3色 (頁) <input checked="" type="checkbox"/>4色 (8 頁))</p>				
印 刷 色	<p>【仕切紙】 枚 <input type="checkbox"/>上質紙 <input type="checkbox"/>色上質紙 (薄口・中厚口) <input type="checkbox"/>その他 () <input type="checkbox"/>片面刷／<input type="checkbox"/>両面刷 (色)</p>				
製 本	<input type="checkbox"/> 無線 (あじろ) とじ <input type="checkbox"/> 針金とじ (<input type="checkbox"/> 中とじ <input type="checkbox"/> 平とじ) (カ所) <input type="checkbox"/> 上製本 <input type="checkbox"/> 見返し <input type="checkbox"/> 背文字 <input type="checkbox"/> バラ (枚帯掛) <input type="checkbox"/> 穴 (カ所) <input type="checkbox"/> ミシン (本) <input type="checkbox"/> セット仕上 (枚帯掛) <input type="checkbox"/> 天のり (組・枚 1 冊) <input checked="" type="checkbox"/> 折り (<input type="checkbox"/> 二つ折 <input type="checkbox"/> 三つ折 <input type="checkbox"/> 巻三つ折 <input type="checkbox"/> 巻四つ折 <input type="checkbox"/> 経本折 <input checked="" type="checkbox"/> 観音折) <input type="checkbox"/> その他 ()				
グリーン購入	<input checked="" type="checkbox"/> 適合 <input type="checkbox"/> 不適合 <input type="checkbox"/> 対象外 <p>【判断基準】</p> <p>(1)総合評価値 80以上 の印刷用紙を使用すること。(冊子形状のものについては表紙を除く。) (2)印刷物の用途・目的に支障のない範囲で、可能な限りAランクの資材を使用すること。 (3)報告書、ポスター、チラシ、パンフレット等の印刷物には、リサイクル適性を表示すること。 (4)オフセット印刷については、インキの種類ごとに規定された率以上の植物由来の油を含有し、かつ芳香族成分が1%未満の溶剤のみを用いたインキが使用されていること。</p>				
写 真	<input type="checkbox"/> カラー 点 <input type="checkbox"/> モノクロ 点 <p>【内訳】 <input type="checkbox"/>支給 [著作権 : <input type="checkbox"/>無 (点) <input type="checkbox"/>有 (点)] <input type="checkbox"/>撮影又はレンタル 点</p>				
イラスト	<input checked="" type="checkbox"/> カラー 30 点 <input type="checkbox"/> モノクロ 点 <p>【内訳】 <input checked="" type="checkbox"/>支給 [著作権 : <input checked="" type="checkbox"/>無 (30 点) <input type="checkbox"/>有 (点)] <input type="checkbox"/>書起し又はレンタル 点</p>				
支給原稿	<p>【表紙】 <input type="checkbox"/>普通紙 <input type="checkbox"/>電子データ (使用ソフト :) 【本文】 <input checked="" type="checkbox"/>普通紙 <input checked="" type="checkbox"/>電子データ (使用ソフト : ワード、エクセル、PDF) 【イラスト】 <input type="checkbox"/>普通紙 <input checked="" type="checkbox"/>電子データ (使用ソフト : JPEG) 【写真】 <input type="checkbox"/>ネガ <input type="checkbox"/>プリント <input type="checkbox"/>電子データ (使用ソフト :)</p>				
原稿引渡	<input checked="" type="checkbox"/> 受注業者決定時 <input type="checkbox"/> 令和 年 月 日 (予定)				
校正責任者	所属名 教育庁義務教育課 ふくしま幼児教育研修センター 担当者 佐藤 内線 (186-201) 外線 (024-554-1808)			校正回数	6 回
納入期限	令和8年3月13日 (金)	データ納品	<input checked="" type="checkbox"/> 要 (形式 : PDF) <input type="checkbox"/> 不要		
納入場所	福島県教育センター (ふくしま幼児教育研修センター) <p>【その他納品先】 <input checked="" type="checkbox"/>有 (郵送 91 カ所) <input type="checkbox"/>無</p>				
特記事項	<input type="checkbox"/> 郵送・仕分けの内容は別紙1及び下記のとおり <ul style="list-style-type: none"> ・郵送<91か所>仕分け、発送まで※郵送先は別紙2のとおり ・納品<1か所>福島県教育センター (ふくしま幼児教育研修センター) ※仕分けは別紙3のとおり (市町村分は外紙に市町村名を記載すること。) ・原稿引き渡し時に初回打ち合わせを行う。なお、初回打ち合わせ及び校正打ち合わせは、担当者が来庁し、対応すること。 				

(注) 1 必要な仕様は、別紙に具体的に書き入れること。

2 受注業者は、作業前に校正責任者と打合せを行うこと。

3 リサイクル適性の表示が必要な印刷物（上記グリーン購入【判断基準】(3)を参照）については、受注業者は速やかに資材確認票を出納局入札用度課に提出すること。

(別紙1) 発送・納品先

- 【発送先・納品先内訳①】については、91カ所への発送費用を含むものとする。
なお、発送に当たっては、発送先ごとに必要数を仕分けし添書を同封すること。
- 【発送先・納品先内訳②③】については、配布先ごとに仕分けし、ふくしま幼児教育研修センターへ納品すること。
なお、配布先ごとの部数は(別紙3発送先)一覧の「仕分け部数」のとおり
・納品時に、印刷物と同じものをPDFファイルとして納品すること。

【発送・納品先内訳】

① 仕分け・発送 486部 (91カ所) ※詳細は「別紙2郵送先」のとおり

発送先	配布部数	発送箇所
文部科学省初等中等教育局幼児教育課	5	1
こども家庭庁成育局成育基盤企画課	5	1
私立幼稚園	425	85
私立小学校	51	4
小計	486	91

486

② 仕分け・納品【ふくしま幼児教育研修センターへ】 8664部

(地教委各3部、保健福祉部各3部、幼児教育施設各5部、小学校・公立特別支援学校各4部+学級数)

配布先	配布部数	配布先	配布部数	配布先	配布部数
福島市	1084	白河市	306	金山町	24
川俣町	41	西郷村	105	昭和村	19
伊達市	270	中島村	37	南会津町	105
桑折町	65	矢吹町	89	下郷町	44
国見町	35	泉崎村	52	桧枝岐村	14
二本松市	335	棚倉町	74	只見町	47
大玉村	57	塙町	47	新地町	56
本宮市	183	矢祭町	33	相馬市	193
郡山市	1296	鮫川村	23	南相馬市	248
須賀川市	372	会津若松市	501	飯舘村	25
鏡石町	71	磐梯町	36	浪江町	21
天栄村	55	猪苗代町	48	葛尾村	18
石川町	42	喜多方市	310	双葉町	29
玉川村	37	北塩原村	38	富岡町	32
平田村	34	西会津町	24	楢葉町	24
浅川町	32	会津坂下町	61	広野町	23
古殿町	24	湯川村	38	大熊町	27
田村市	162	柳津町	34	川内村	23
三春町	102	会津美里町	91	いわき市	1397
小野町	32	三島町	19	小計	2369
小計	4329	小計	1966		

8664

③ 仕分け・納品【ふくしま幼児教育研修センターへ】 850部

配布先	配布部数	配布先	配布部数	配布先	配布部数
教育総務課	10	高校教育課	2	特支教育センター	5
職員課	2	県立高校改革室	2	県立特別支援学校	391
財務課	2	社会教育課	5	子育て支援課	10
健康教育課	5	各教育事務所	70	私学・法人課	10
特別支援教育課	5	教育センター	5	附属学校園	36
小計	24	小計	84	小計	452

850

合計 ① + ② + ③ = 10,000部

10000

(別紙2)郵送先

◆ 国機関

No.	送付箇所	部数
1	文部科学省初等中等教育局幼児教育課	5
2	こども家庭庁成育局成育基盤企画課	5

◆ 令和7年度 私立幼稚園

(幼稚園・幼稚園型認定こども園)

No.	幼稚園名	部数
1	桜の聖母学院幼稚園	5
2	福島文化幼稚園	5
3	福島文化瀬上幼稚園	5
4	めばえ幼稚園	5
5	福島めばえ幼稚園	5
6	三育幼稚園	5
7	西部三育幼稚園	5
8	みその幼稚園	5
9	福島愛隣幼稚園	5
10	さくら幼稚園	5
11	福島わかば幼稚園	5
12	飯坂恵泉幼稚園	5
13	福島わたくさ幼稚園	5
14	白百合幼稚園	5
15	福島ルンビニー幼稚園	5
16	二本松幼稚園	5
17	同朋幼稚園	5
18	二本松カトリック幼稚園	5
19	岩代幼稚園	5
20	本宮幼稚園	5
21	郡山女子大学附属幼稚園	5
22	尚志幼稚園	5
23	尚志緑ヶ丘幼稚園	5
24	郡山ザベリオ学園幼稚園	5
25	たちばな幼稚園	5
26	たちばな西幼稚園	5
27	双葉幼稚園	5
28	双葉第二幼稚園	5
29	あけぼの幼稚園	5
30	柴宮幼稚園	5
31	富久山西幼稚園	5
32	富久山幼稚園	5
33	並木幼稚園	5
34	こはらだ幼稚園	5
35	多田野幼稚園	5
36	富田幼稚園	5
37	小山田幼稚園	5
38	わかば幼稚園	5
39	田村町つつみ幼稚園	5
40	大槻中央幼稚園	5
41	開南幼稚園	5
42	東部朝風幼稚園	5
43	安積町つつみ幼稚園	5

◆ 令和7年度 私立幼稚園
(幼稚園・幼稚園型認定こども園)

No.	幼稚園名	部数
44	たから幼稚園	5
45	みどり幼稚園	5
46	大谷幼稚園	5
47	安積幼稚園	5
48	セントホール幼稚園	5
49	みらい幼稚園	5
50	須賀川幼稚園	5
51	丘の上幼稚園	5
52	白河カトリック幼稚園	5
53	学校法人西郷幼稚園	5
54	若松聖愛幼稚園	5
55	喜多方カトリック千草幼稚園	5
56	喜多方教会附属いずみ幼稚園	5
57	塩川幼稚園	5
58	田島カトリック暁の星幼稚園	5
59	いわき短期大学附属幼稚園	5
60	九品寺附属平窪幼稚園	5
61	遠野町まこと幼稚園	5
62	まこと幼稚園	5
63	入遠野まこと幼稚園	5
64	寿幼稚園	5
65	いわき幼稚園	5
66	白ばら幼稚園	5
67	ありす幼稚園	5
68	あかい幼稚園	5
69	小川幼稚園	5
70	かなや幼稚園	5
71	千鳥幼稚園	5
72	はな幼稚園	5
73	かしま幼稚園	5
74	ほうとく幼稚園	5
75	はるな幼稚園	5
76	なこそ幼稚園	5
77	明徳館幼稚園	5
78	小名浜白百合幼稚園	5
79	勿来カトリック幼稚園	5
80	聖テモテ幼稚園	5
81	青葉幼稚園	5
82	原町みなみ幼稚園	5
83	中村幼稚園	5
84	原釜幼稚園	5
85	富岡幼稚園	5

◆ 令和7年度 私立小学校

学種別 No.	学校名	部数
1	桜の聖母学院小学校	16
2	郡山ザベリオ学園小学校	15
3	会津若松ザベリオ学園小学校	10
4	いわき秀英小学校	10

	郵送先	冊数
1	文部科学省	5
2	こども家庭庁	5
3	私立幼稚園	425
4	私立小学校	51
	合計冊数	486

※発送施設は別紙2

※発送施設は別紙2

仕分け数

※外紙に市町村名を明記

市町村教委に依頼

		送付部数		園数・部数										部数は施設数×5部		
		教育委員会	保健福祉部	公立幼稚園	部数	公立こども園	部数	公立保育園	部数	私立幼稚園	部数	私立こども園	部数	私立保育園	部数	計
県北教育事務所	福島市	3	3	10	50	3	15	11	55			13	65	33	165	356
	川俣町	3	3	1	5	0	0	0	0			1	5	0	0	16
	伊達市	3	3	2	10	2	10	2	10			8	40	2	10	86
	桑折町	3	3	1	5	0	0	0	0			1	5	0	0	16
	国見町	3	3	1	5	0	0	1	5			0	0	0	0	16
	二本松市	3	3	8	40	2	10	4	20			4	20	7	35	131
	大玉村	3	3	2	10	0	0	0	0			0	0	1	5	21
	本宮市	3	3	5	25	0	0	5	25			0	0	3	15	71
	郡山市	3	3	0	0	0	0	25	125			8	40	34	170	341
	須賀川市	3	3	2	10	5	25	2	10			10	50	3	15	116
県中教育事務所	鏡石町	3	3	1	5	0	0	0	0			2	10	2	10	31
	天栄村	3	3	2	10	0	0	1	5			0	0	0	0	21
	石川町	3	3	0	0	1	5	0	0			1	5	0	0	16
	玉川村	3	3	0	0	0	0	0	0			1	5	0	0	11
	平田村	3	3	0	0	1	5	0	0			0	0	0	0	11
	浅川町	3	3	1	5	0	0	1	5			0	0	0	0	16
	古殿町	3	3	0	0	1	5	0	0			0	0	0	0	11
	田村市	3	3	5	25	0	0	4	20			1	5	1	5	61
	三春町	3	3	0	0	1	5	2	10			1	5	0	0	26
	小野町	3	3	0	0	0	0	0	0			1	5	0	0	11
県南教育事務所	白河市	3	3	8	40	0	0	5	25			4	20	3	15	106
	西郷村	3	3	1	5	0	0	0	0			0	0	4	20	31
	中島村	3	3	1	5	0	0	1	5			0	0	0	0	16
	矢吹町	3	3	4	20	0	0	0	0			0	0	1	5	31
	泉崎村	3	3	1	5	0	0	0	0			2	10	1	5	26
	棚倉町	3	3	3	15	0	0	0	0			0	0	1	5	26
	塙町	3	3	2	10	0	0	1	5			0	0	0	0	21
	矢祭町	3	3	1	5	0	0	1	5			0	0	0	0	16
	鮫川村	3	3	0	0	1	5	0	0			0	0	0	0	11
	会津若松市	3	3	1	5	0	0	2	10			20	100	8	40	161
会津教育事務所	磐梯町	3	3	1	5	0	0	1	5			0	0	0	0	16
	猪苗代町	3	3	0	0	2	10	0	0			0	0	0	0	16
	喜多方市	3	3	0	0	10	50	0	0			2	10	10	50	116
	北塩原村	3	3	2	10	0	0	0	0			0	0	1	5	21
	西会津町	3	3	0	0	1	5	0	0			0	0	0	0	11
	会津坂下町	3	3	2	10	0	0	1	5			0	0	0	0	21
	湯川村	3	3	1	5	0	0	1	5			0	0	0	0	16
	柳津町	3	3	0	0	0	0	2	10			0	0	0	0	16
	会津美里町	3	3	0	0	2	10	0	0			2	10	0	0	26
	三島町	3	3	0	0	0	0	1	5			0	0	0	0	11
南会津教育事務所	金山町	3	3	0	0	0	0	2	10			0	0	0	0	16
	昭和村	3	3	0	0	0	0	1	5			0	0	0	0	11
	南会津町	3	3	1	5	0	0	3	15			0	0	2	10	36
	下郷町	3	3	0	0	0	0	2	10			0	0	0	0	16
	檜枝岐村	3	3	0	0	0	0	0	0			0	0	0	0	6
	只見町	3	3	0	0	1	5	2	10			0	0	0	0	21
	新地町	3	3	0	0	0	0	3	15			0	0	0	0	21
	相馬市	3	3	6	30	0	0	0	0			1	5	5	25	66
	南相馬市	3	3	3	15	1	5	2	10			4	20	5	25	81
	飯館村	3	3	0	0	1	5	0	0			0	0	0	0	11
相双教育事務所	浪江町	3	3	0	0	1	5	0	0			0	0	0	0	11
	葛尾村	3	3	1	5	0	0	0	0			0	0	0	0	11
	双葉町	3	3	1	5	0	0	0	0			0	0	1	5	16
	富岡町	3	3	1	5	1	5	0	0			0	0	0	0	21
	楢葉町	3	3	0	0	1	5	0	0			0	0	0	0	11
	広野町	3	3	0	0	1	5	0	0			0	0	0	0	11
	大熊町	3	3	0	0	1	5	1	5			0	0	0	0	16
	川内村	3	3	0	0	1	5	0	0			0	0	0	0	11

印字サンプル

子どもの育ちと学びをつなぐ



架け橋期のカリキュラム 活用リーフレット（仮）

- このリーフレットの使い方的？
- このリーフレットを使う人々へのメッセージ？
- このリーフレットへに込めた思い？

コンセプト
研修にかつようできるリーフレット

令和8年2月

福島県教育委員会

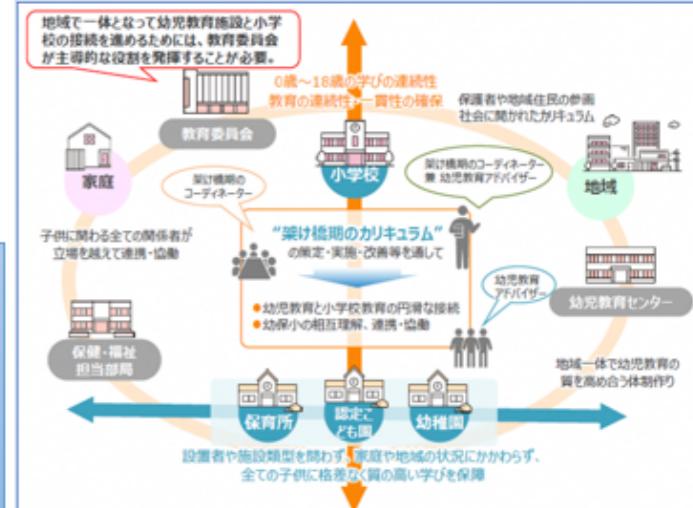
架け橋プログラムの概要

架け橋プログラムとは

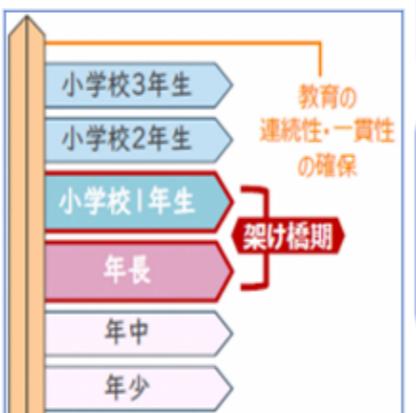
※ 架け橋期…5歳児から小学校1年生の2年間

子供に関わる大人が立場を越えて連携し、架け橋期にふさわしい主体的・対話的で深い学びの実現を図り、一人一人の多様性に配慮した上で全ての子供に学びや生活の基礎を育むことを目指したものです。

各自治体でどのような子供を育てていくか。その実現のために、子供に関わるすべての大人が協働して、架け橋期の教育を充実させることが求められている



実践に大切なこと



実践に必要なこと

体制作り
各自治体の全ての子供に学びや生活の基盤を育むために、架け橋期の子供たちに関わる全ての大人が協働できる体制を作ることが必要です。

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

幼児期にふさわしい遊びや生活を積み重ねることにより、幼児教育において育みたい資質・能力が育まれている幼児の具体的な姿。特に5歳児後半に見られるようになる姿。到達目標ではない。

相互理解

幼児教育と小学校の先生が、保育参観や授業参観等子供の姿をもとに、子供の発達や学び、教育方法、子供への関わり方等を理解することが大切です。

発達や学びの連続性

学びの場は変わっても、子供たちの学びはつながっています。幼児教育で育まれた資質・能力の基礎を小学校の学びへ円滑に接続することが大切です。

指導方法の連続性・一貫性

「主体的・対話的で深い学び」の実現、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実のために保育改善と授業改善を行うことが大切です。

幼児教育・小学校教育の質の向上

3要領・指針、学習指導要領にそった保育・授業を実施すること。幼児教育施設では、小学校との接続を見通した保育の実践や、小学校の学びにつながる多様な体験の保障、小学校では、教師が話す授業から聞く・見る・つなぐ授業への質的転換が必要です。



幼児教育と小学校教育をつなぐ手掛かり

フェーズ1～基盤作り～

具体化

園・小学校

- ① 園・小学校での活動の共有
- 幼児教育施設、小学校で窓口や担当を決める。→体制づくり
 - 園内・校内研修、自治体が主催する研修等で架け橋期のカリキュラムの意義やねらい、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿などを研修し、全職員の共通理解を図る。→共通理解
 - 保育・授業参観、研究協議への参加等を通して、環境構成やどのようなねらいでどのようなことをしているのか、子供たちがどのような流れ（1日、月、年間）で生活しているのかを共有する。→相互理解

 学区には、複数の幼児教育施設があるので、グループになっていると、交流しやすいです。

幼児教育と小学校における特有の表現やそれぞれにもつイメージが異なる表現（環境、単元、教育課程、指導、教材等）について、研修会で補足説明を聞いて、理解することができました。

② 子供の交流

- まずは行事などの機会にやってみる

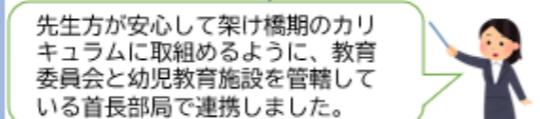
近くの公園で、一緒に秋の自然物を集める等しました。

体制づくり

園・小学校

自治体

- ① 連携窓口の明確化
- 【連携強化への支援】
- ① 架け橋期のカリキュラム開発会議の立ち上げ（必要に応じて）
- 既存の研修会を活用して架け橋期について研修しました。また、接続する園と小学校のマッチングをして、連携先を明確にしました。
- ② 幼保小の合同研修回の実施
- ③ 自治体内部の関係部局との連携

 先生方が安心して架け橋期のカリキュラムに取組めるように、教育委員会と幼児教育施設を管轄している首長部局で連携しました。

フェーズ2～検討・開発～

① 共通の視点をもとに内容の検討・開発

- 4、5ページを参考に共通の視点をもとに具体化していく。

 コミュニティスクールの会議を活用して、地域や保護者の方も交えて、地区としてどのような子供を育てていきたいか、子供像について話合いました。

共通の視点としてどのような項目がよいか、モデル地区等の架け橋期のカリキュラムを参考に話し合って決めました。

② 人やものとの関わりを通じた学びを踏まえて、教材としての環境の共通性の理解

- 人やものといった環境が有する、子供にとっての教育的価値に着目し、幼保小の先生方が意見交換する。

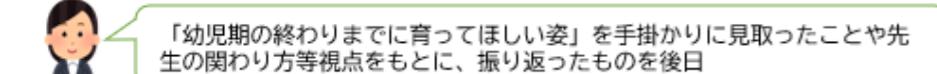
友達と話合いながら課題を解決できるような席の配置や子供達がいつでも確認できるような学習の足跡の掲示、各教科の関連を意識した単元構成等小学校の先生もひと、もの、ことの環境を構成していることがわかりました。

子供達のやってみたいとねらいの達成のバランスを考えながら、ひと、もの、ことの環境を設定していることがわかりました。教師も環境の一部ということで、見守ったり、共感したり子供との関わりが勉強になりました。授業に生かしていきたいです。

③ 子供の交流の推進→先生も子供も互恵性がある活動をめざして

- 幼児や児童の活動のねらいの共通理解、活動内容の把握、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに各先生が捉えた子供の姿や先生の関わりについての意見交換等の事後打合せをする。

幼児と児童の双方が、夢中になり学びがある活動になることを大切にしました。事前の打合せでは、お互い負担がないように簡単に活動のねらいや内容をまとめたものを送付したり、オンラインを活用したりしました。

 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛けかりに見取ったことや先生の関わり方等視点をもとに、振り返ったものを後日

① 幼保小合同会議の設置

【接続に向けた支援】

- ① 研修の推進、研修教材の開発

 合同会議では、課題に関する協議、子供の変容や自園・自校の先生の意識の変容等を共有しました。

 公開保育や授業研究会等日程の確認やお互いの役割分担と担当を明確化しました。

② 相互の教育の内容や方法に関する理解の共有

保育・授業参観、動画、ドキュメンテーション等実際の子供の姿や事例を取り上げ、架け橋期のカリキュラムの共通の視点から理解を深めていました。

 研修会の指導・助言、講義に幼児教育研修センターを活用しました。

	0歳～	5歳児
共通の視点として考えらえる項目例		4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3

①期待する子供像

①架け橋期を通してどのような子供を育てる。

②遊びや学びのプロセス

②期待する子供像の育成に向けて、5歳児とめる。

③園で展開される活動/小学校の生活科を中心とした各教科等の単元構想等

③期待する子供像の育成に向けて、幼児教まとめる。

先生の関わり

子供の学びや生活を豊かにする園の環境構成・小学校の環境づくり

④指導上の配慮事項

④保育参観や授業参観を通して、先生の関

⑤子供の交流

⑤期待する子供像の育成にむけて、子供たる。互いの保育・教育に負担になり過ぎない

⑥教職員の交流

⑥幼小連携等の会議、交流活動の事前・事後計画的に互いの保育・教育を理解していく。

⑦家庭や地域との連携

⑦期待する子供像について、家庭や地域との活用、情報発信の方法等)

幼児教育施設と小学校の先生方が子供の姿を真ん中に話し合い、必について理解し、自分の保育・授業に取り入れていきましょう。また、架け橋期のカリキュラムは作成することが目的ではありません。改善をして、次年度へと継続していくことが大切です。

かけ橋期のカリキュラムを貼って御活用ください！

キュラム例

小学校1年生

4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3

小学校2年生～

たいかを決める。各自治体の掲げる子供像を踏まえるのもよい。

・1年生の発達を踏まえ、それぞれの遊びや学びのプロセスをま

育施設の活動と小学校の各教科等の教育内容や活動のつながりを

わり、環境の構成や環境づくりのポイントを示す。

ちの育ちと学びにつながる互恵性のある交流活動になるようにす
いように配慮する。それぞれの教育課程に位置付ける。

後の打合せ、公開保育・公開授業の参観・事後研究会等を示し、
ようにする。

共有、連携協働するための方法等示す。（コミュニティスクール

重要な項目を考えましょう。互いの保育・教育に

せん。各自の教育課程と結び付けて活用し、評



フェーズ3～実施・検証～

具体化

園・小学校

- ① 園・小学校において教育課程編成・指導計画作成、実施・検証
□ 共通の視点が保育や授業の場面でどのような指導上の配慮となって表れているのか相互理解を深める。



かけ橋期のカリキュラムを踏まえて、教育課程を編成しました。さらに、共通の視点が保育や授業の場面でどのような指導上の配慮となって表れたか園の先生と話合い、相互理解を深めました。共通の視点にあった「教師の関わり」を意識して「園ではどうしてたの？」と園での経験を引き出すようになりました。

- 相互の教育の見方や子供の捉え方の変容等について意見交換する。



交流の後に、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに、見取った子供の姿や先生の関わりについて意見交換しました。園の先生の話を聞いて、子供の新しいよさを見出すことができました。

- ② 人やものとの関わりを通じた学びを踏まえ、教材としての環境の活用
□ 人やものといった環境が、子供の発達に応じてどのような教育的価値をもち、遊びや学習の中でどう活用するかについて一緒に考える。



生活科の「秋のおもちゃまつり」での交流では、小学校の先生と一緒に、グループ構成やどんな材料を準備するか、コーナーをどのように設置するか一緒に授業をデザインしました。

- ③ 子供の交流の充実

- 指示が多過ぎたり、すぐに援助をしたりせず、子供同士の自発的な関わりが生まれるようにする。
□ 活動前に、園・小学校での子供の姿を伝え合い、先生がどのような関わり方をするのかについて共通理解を図るとともに、活動後に一緒に振り返る。



かけ橋期のカリキュラムにある期待する子供像やお互いの子供の姿から、園の先生と関わりに方について共通理解を図ったり、分担を確認したりすることで、一貫性をもって子供と関わることができました。事前に共通理解を図っていたので、ポイントを絞って短時間で一緒に振り返りができました。

フェーズ4～持続的・発展的～

- ① 持続的・発展的なかけ橋期のカリキュラム

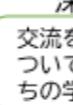
- 共通の視点等についても固定的に捉えすぎず、子供のウェルビーイングを高める視点から見直しをする。



次年度の教育課程編成の前に、園の先生と毎年見直し改善していくPDCAサイクルが定着しています。

- ② 人やものとの関わりを通じた学びを踏まえ、教材としての環境の活用の充実

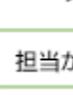
- 環境がもつ教育的価値について、幼保小の先生が一緒に教材研究を深め、教材を開発する。



交流を続ける中で、生活科や体育科等、園での遊びとつながりが深い単元について、小学校の先生と一緒に活動を考え、「こんなものがあったら子供たちの学びにつながりそう」という教材を作成しました。

- ③ 持続的・発展的な子供の交流実施

- 蓄積したノウハウを整理し、事後の話し合いのポイントを検討したり、自園・自校内での共有や引継ぎを確実に行う。



担当が異動になつても困らないように、複数名で担当する等組織化しています。

体制づくり

園・小学校

- ① 幼保小合同会議の充実

教育課程や指導計画に相互の指導の内容や方法を生かせることがないかという視点から、スタートカリキュラムやアプローチカリキュラムの見直しも行いました。

- ② 相互の教育内容や方法に関する理解の深化

保育・授業参観での気付きや疑問を気兼ねなく話合えるようになりました。

- 保育や授業の展開を園と小学校で一緒に考えて交流活動をしました。

- ① 幼保小合同会議の定着

【持続的・発展的な取組を支える支援の定着】
① 研修の改善・発展、研修教材の改善・発展
② 必要な支援策の改善・発展

- ③ 園・小学校と関係機関・関係団体との連携コーディネートの充実

幼児教育研修センターの人材育成研修を活用し、かけ橋期コーディネーター等を育成し、各地区的かけ橋期の教育を充実させていきます。

自治体

- 【幼保小の協働実施の支援】

- ① 研修の充実、研修教材の活用

研修会では、交流での振り返りからかけ橋期のカリキュラムを見直し、また、実践することを通して、改善・発展への意識が持続するようにしました。

- ② 実施上のニーズの把握と支援

③ 園・小学校と関係機関・関係団体との連携コーディネートの充実

幼児教育研修センターの人材育成研修を活用し、かけ橋期コーディネーター等を育成し、各地区的かけ橋期の教育を充実させていきます。

架け橋期のカリキュラム

架け橋期のカリキュラムとは

幼保小の先生が、共通の視点を持ちながら、相互の教育内容や教育方法の充実を図るために、協働して作成するカリキュラムのことです。

架け橋期のカリキュラムの効果

子供



- 小学校への適応能力の向上：幼児期に培った力を基に、小学校での主体的な学びや生活へスムーズに取組むことができます。→小1 プロブレムの軽減
- 学びや生活の基盤の育成：幼児期の「遊びは学び」遊びを中心とした学びを、小学校以降の「主体的・対話的で深い学び」へとつなぐための基盤となる資質・能力が育まれます。
- 充実感や自己肯定感の育成：自分のやりたいことに向かってのびのびと取組む経験や、友達との関わりで遊びが深まる経験を通して、「できた」「わかった」という達成感や、協同的に学ぶよさを実感する一体感等が育まれます。

先生



- 相互理解の深化：幼児教育と小学校の先生が「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛けかりに協議することで、互いの教育内容や方法を理解し合い、連携が強化されます。
- 保育・授業の質の向上：相互理解が深まることで、子供の見取りりやより良い環境構成、教師の関わりについて考える機会が増え、保育や授業の質の向上につながります。
- 指導における「観」の転換：相互理解が深まることで、特に小学校において、幼児期の自発的な遊びや育ちの重要性を理解し、入学直後の指導（指導観）や子供の捉え方（児童観）について再考する機会となり、子供の主体性を尊重した教育活動への転換につながります。

家庭 地域



- 安心感と協働意識の向上：園や小学校と子供の育ちの共通理解ができるること、幼児教育と小学校との連携が明確に見えることにより、就学や進学・進級への不安が軽減するとともに、園や学校への安心感・信頼感につながります。また、共通理解を通して、家庭での子供の主体性を尊重した声掛けや活動を促進できます。
- 地域全体での子育て環境の醸成：地域の方や施設が、架け橋期の活動の「先生」や「場」として参画し、教育活動の幅が広がります。また、架け橋期の教育がカリキュラムによって地域に開かれることで、地域全体で子供たちを見守り、支えるという意識の高まりも期待できます。子供たちは、地域と継続的に関わるきっかけとなり、地域への愛着が育まれます。

つながりを可視化したのが架け橋期のカリキュラム

架け橋期のカリキュラムの作成を通して、相互の教育内容や教育方法を理解し、充実していくことが大切です。そのためには、学区の幼児教育施設でどんなことをしているのか。子供の育ちと学び、先生たちの保育の様子を知る必要があります。

1つの小学校に複数園から入学する場合もあります。学区の幼児教育施設同士が連携・協働して、保育を充実していくことが大切です。

社会に開かれた教育課程の視点から、保護者や地域の方々への情報発信や共有、関係機関との連携も考えていくことも大切です。

スタートカリキュラム・アプローチカリキュラムとの関連

架け橋期のカリキュラムは、2年間を見通したものに対して、スタートカリキュラム・アプローチカリキュラムは、卒園・入学の1か月程度のカリキュラムです。入学してすぐという、連携・接続の一一番大切な部分を担うカリキュラムになります。架け橋プログラムの実現のために、架け橋期のカリキュラムの内容と照らし合わせて、子供たちが、幼児教育で育まれた力を安心して発揮できる環境になっているか見直すことが大切です。

各モデル地区の実践例

喜多方市

- 既存の会議を活用し、幼小の相互理解に関わる機会を保障
- 幼児教育施設同士の連携をもとにした小学校との交流



合同保育を実施することで、学区の幼児教育施設の保育が充実しました。

- 架け橋期のカリキュラムをもとに、小学校ごとにアプローチカリキュラム、スタートカリキュラムの見直し・改善



入学前の子供たちの育ちと学びを理解することで、より子供に寄り添ったスタートカリキュラムに改善することができました。

田村市

- 事前の打合せと事後の振り返りによる交流の充実



場の設定や教師の関わり等、園の先生と一緒に授業を考えました。当日は、1年生も園児と一緒に主体的に学習に取組み、ねらいを達成することができました。

- コミュティスクールを活用して、架け橋期のカリキュラムを地域や保護者とも共有



保護者の方とも架け橋期のカリキュラムについて共有しました。話し合いの結果を架け橋期のカリキュラムにも反映していこうと思います。

各モデル地区の詳しい取組は、こちらを御覧ください。

南相馬市

- 年間を通して計画的な実践とカリキュラムの見直し
- 地域の実態に応じて各中学校区での架け橋期のカリキュラムの作成



中学校区ごとに考えることで、地域の実態に即した架け橋期のカリキュラムになりました。

- 架け橋期だけでなく、その前後の年齢との発達のつながりを共有



0歳児からの発達と学びの連続性を意識して保育に取組んでいます。

【架け橋期のことがよくわかる文献等】